

にじりぐち

新潟青年部広報誌

青年部綱領

われわれ茶道を愛好する青年としての自覚により淡交会の諸活動に協力し、お茶を通じて良識ある近代人としての人間形成に努め、同志的結合によって結ばれた友情と情熱で正しい地域社会発展のために努めよう。

発行：茶道裏千家淡交会新潟青年部



経験を次の一歩へ

新潟青年部部长 池田 誠(富澤宗典社中)

新潟青年部の活動にいつも温かいご支援と声援を賜り、誠にありがとうございます。

支部の親先生はじめOBの先輩方、ブロック内青年部からたくさんの皆様に青年部茶会へ足をお運びいただきましたことに、また、事情により参加いただけなかった皆様からからも温かいご支援を賜りましたことに、改めまして厚く御礼申し上げます。

「(青年部茶会って)しばらく開いてなかったよね」—そんな一言から、新しい新潟青年部となって”初”の青年部茶会の企画は始まりました。「いつ、どこで開催しようか」「内容や道具

新潟青年部茶会

新潟市中央区(燕喜館)

組みはどうしようか」…考え仕事や学業、家庭に忙しい中で時間を創り、アイデアを出し合い、時には順風満帆とはいかないこともあったりした中で一つの茶会を組み立てることができたことは、これからの新潟青年部にとって大きな一歩になったと確信しています。

平成29年(2017年)8月27日は、青空の一日でした。次に向けて考えていくことも見つかった青年部茶会ではありましたが、一人ひとりが一生懸命取り組んだ姿と重なる、晩夏の太陽が印象的でした。



青年部茶会

石川 史嗣(青島宗智社中)

一青年部になり早5年。新潟青年部として初の青年部茶会を開催しました。

暑つい盛りの8月27日を茶会の日と決めて、桜の頃から動き出す。

茶会に向けての中で気が付けば3青年部時代の青年部茶会を知る方がごく少数。最初から手探りで何もかもが初めての青年部茶会でした。「自分達で新しい形を作って行けばいいさ」と、誰かが言った。そうなんだよね、未来に向けて作って行けばいいさ。運営を考えたり、動線を考えたり、茶会で使う物を作ってみよう！と行事を催したり、全員で一本の茶杓を削ろう！と皆で削った



茶杓。前日に全ての席で使う水を汲みに行ったり、茶会に向けて御菓子作りの薄茶席。青年部だからこそ、が色々ありました。

茶会は先生方、OB、他青年部の皆様128名をお迎えしての茶会となりました。

本当に暑い中でしたが、足をお運びくださり感謝の気持ちで一杯です。

茶会を経て色々新しい発見があり非常に勉強になりました。より精進したいと思います。

『新潟青年部茶会 初開催』

吉村 真淑(片山宗雪社中)

新潟3青年部が統合されて、気が付けば5年という月日が流れていました。

青年部活動のなかの大きな行事の一つである青年部茶会を初めて開催するにあたり、今まで各青年部で培ってきたもの、またその思いなどが凝縮された茶会になったのではないかと思います。

お茶会当日のその日まで、各担当席での打ち合わせなどでは、よりお客様に楽しんでいただける

ようにとの気持ちが溢れ、部員同士で意見がぶつかることもありましたが、それもいまでは楽しい思い出となっていることと思います。

改めて青年部活動のすばらしさ、またみんなで一つのことを成し遂げていく充実感を味わえたとてもよい機会でした。

最後になりますが、多くのお客様においでいただきまして本当にありがとうございました。





竹田 菜々 (山口宗好社中)

あさひ、とき、上越の3青年部が一つになってから、何かするにも会場が遠くなったり、一度もお会いしたことがない方の方が多くなったりと、青年部の活動が少し身近なところから遠くなったような気がしておりました。そんな中、この度の青年部茶会は、貴重な機会に少しでも関わらせて頂ければという気持ちで、思い切って参加させて頂きました。

受付では、お客様のご案内や誘導、頂いた



会費等の管理をさせて頂きましたが、存知上げない方が多く、先輩方に随分助けて頂いたと思います。またお預かりしたものを確実に管理する責任の重さを感じました。

大変な面もあったかと思いますが、燕喜館という素晴らしい会場で、今までお会いできなかった部員の皆さんとご一緒させて頂いた事は本当に楽しく有意義で、たくさん刺激も頂き、普段学べないことをたくさん勉強させて頂いたと思います。思い切って参加させて頂いて、本当に良かったと思ってお茶会でした。



香煎席を終えて

古泉 貴子(早川宗正社中)

香煎席ではお軸が竹田益州老師お筆の楽在此中、香煎は名水にお米をすり炒ったものとイチョウをかたどった生姜を紅白で用意しお客様をお迎えしました。

私は主にお運びをさせていただきましたが、お客様からはお軸や香煎についてのご質問の後「落ち着ける良い席ですね」等の言葉を頂戴する事もあり、次のお席に繋げることが

できたのではないかと考えております。

特に香煎は、試行錯誤のすえ決まった組み合わせでしたし、名水も暑い中先輩方が汲みに行ったことを思い出し、お褒めの言葉を頂いた時は本当に嬉しく感じました。私にとっては、人と人との繋がりの大切さや、茶道を通して交流する楽しさを再認識できました。ただ気付いたことは前向きなことだけではありません。いくつかの課題も見付けました。このお茶会で得られたものを今後に反映できたらと考えています。

この度は参加させて頂きありがとうございました。





五十嵐 穰(五十嵐宗看社中)

私は今年度より新潟青年部に入会させていただき、今回の青年部茶会への参加が初めての活動となりました。

お茶会の場やお稽古への参加が十分でなく、また初めて会う会員の方々とうまく協力して、お招きする青年部OBや遠方からの青年部の方々などに失礼がないよう取り組むことができるのか、茶会の日が近づくにつれて不安を感じていました。しかし前日に行なわれた準備は、

互いに声をかけあいスムーズに作業を進めることができ、また打ち合わせも入念に行なわれ、わからないことにも丁寧に指導していただきました。当日は緊張したものの、私だけでなく参加者全員が役割を全うできたのではと感じ、「一人一人が主人公」という新潟青年部のテーマに沿うことができたと思います。この青年部茶会への参加で、非常に充実し、貴重な経験をさせていただくことができたと思います。

山崎 公美子(片山宗雪社中)

青年部茶会薄茶席ではお点前を仰せつかりました。依頼メールが来た時、ドッキーン、まじか…と真っ白になったのを覚えています。お点前は千歳盆。お茶びつごと運びだしお道具を清めながらひとつひとつ並べてゆくお点前に、なんと可愛らしい、とお稽古しながら実は楽しくもなっていたのです。

当日は緊張して周りの様子はよく覚えていません。でも、青年部の先輩方秘蔵のお道具を使わせてもらい、皆さんのフォローを頂きながらお役目を果たせる…とても幸せな気持ちで点前座に居たように思います。

またその日使った「主人公」という銘の茶杓を青年部で削り自分も一刀入れたことも、さらにその



主人公が異様に清めにくく暴れん坊だったのも良い思い出です(笑)

今また振り返りますと当日の『白桂尚磨くべし』のお軸が忘れられません。良い機会を与えてくださった先輩方、お稽古を見て頂いた先生、お仲間の皆さんに、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました！

■次回号よりe-mailへ送付をご希望の方は、データ送付を希望するe-mailを下記までへお送りください。

＜新潟青年部＞ inf.tns@gmail.com

QRコードでもアクセス可能です！

注1)パソコンやスマートフォンなど、PDFファイルの受信可能なe-mailをお知らせください。

注2)e-mailをご希望された方には、紙媒体での送付は行いません。



なお、「にじりぐち」は北陸信越ブロックのホームページからも閲覧できます。

＜北陸信越ブロックホームページ＞ <http://www.hokurikushinetsu-seinenbu.org/index.html>